

第5回 PXフォーラム 各国の取り組みから学ぶ ～グローバルにおけるPX～

<抄録>

講演①

海外の動向／グローバルカウンシルが目指す医療

藤井 弘子

日本パシエント・エクスペリエンス研究会

メディア統括マネジャー

PX(Patient eXperience;患者経験価値)はイギリス、アメリカが先進的な取り組みをしてきましたが、近年ではシンガポールや韓国などアジアでも、患者中心性を測る指標として導入されています。

また、アメリカのPX推進団体「The Beryl Institute」が運営する協議会が2021年に設立。世界16カ国でPXを推進する団体のメンバーが集まり、PXのグローバル尺度を新たに作るべく、議論を進めています。世界の人々がPXに取り組むことで目指す医療について示したいと思います。

シンポジウム

PXE3期生からの発表

司会

安藤 潔(東海大学医学部血液・腫瘍内科教授／日本PX研究会理事)

演者

荒神 裕之(山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授・医師 GRM)

稲田 雄(大阪母子医療センター 集中治療科)

安田 忍(やわたメディカルセンター PX 推進室)

2021 年度も COVID-19 パンデミックによる多忙な医療現場から 40 名の参加者を得て、PXE 第 3 期が無事に終了しました。本シンポジウムでは、すでに具体的な活動に PXE の学びを反映いただいている 3 名に登壇いただいております。それぞれの領域でどのように PX 活動を推進していくかを学ぶ機会としたいと存じます。よろしくお願いいたします。

講演②

日本におけるPX改善の取り組み～PXアンケートを活かす

小澤 元子

堺市立総合医療センター

看護局統括次長

NHA(日本ホスピタルアライアンス)の加盟病院を対象とした「PXアンケート」に参加。アンケート結果は多部門で構成される患者満足度向上委員会で共有し、医療現場では結果をもとに次年度の目標を決めるなど、具体的な改善を図っています。看護局では退院支援、看護方式の評価にも PX アンケートを活用しており、スタッフのモチベーションにつながっています。課題設定と改善に向けた取り組みについてご紹介します。

講演③

クリーブランド・クリニックに学ぶ

PX 向上に重要なこと

曾我 香織

日本PX研究会代表理事／株式会社スーペリア代表取締役

世界で最も PX に注力している病院の一つとして、アメリカ・オハイオ州にあるクリーブランド・クリニックがあります。クリーブランド・クリニックは早期に PX 専門部署を立ち上げ、PX 向上や普及に努めてきました。新型コロナウイルス感染症のパンデミック前は私も訪問し、現地で学んできましたが、2021 年頃から流れが変わってきたようです。直近のクリーブランド・クリニックから学んだ「光と影」をご紹介します。

特別講演

PX とは: 普遍的なビジョンと具体的な行動

Amah Kouevi

French Patient Experience Institute CEO

PX は、世界中の医療システムにとって、ますます重要な課題となっています。医療機関の多くが、ヘルスケア領域におけるヒューマンエクスペリエンスは、一般的なケアの改善にとどまらず、一人ひとりの医療従事者にとって「やりがい」を生み出すための鍵だと理解しています。

ポストコロナ時代の深刻な課題に対峙していくには、医療政策の目的をマクロなレベルと、ミクロなレベルであるベッドサイドの両方の視点から再定義する必要があります。私たちは患者に何を望んでいるのでしょうか。それは私たちの労働力にとってどのような意味があるのでしょうか。

フランスにいる私たちから国際比較して見ると、共通したビジョンが国ごとに違う形をとりながら、さまざまな方策につながっているのは興味深いことです。

この違いは何から来るのでしょうか。歴史的、文化的、または社会的な理由なののでしょうか。その答えを一緒に見つけていきましょう。